

## 1 勉強について

### 1) 勉強が好きか

中国の高校生の約8割は「勉強が好き」と回答し、日米韓の3割強を大きく上回っている。

「あなたは、勉強がどれくらい好きですか」という設問に対し、「とても好き」「まあ好き」と回答した者の割合は、日本 30.5%、米国 31.6%、韓国 32.5%に対して、中国が 75.9%と高く、日米韓と大きな差を示した（図 1-1）。

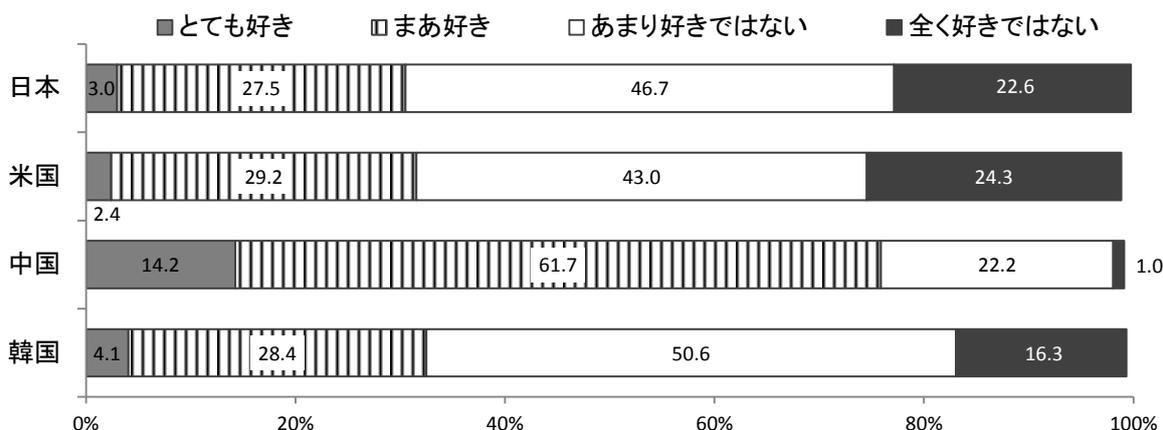


図 1-1 勉強がどれくらい好きですか

（「無回答」の割合を表記していない。以下同様）

### 2) 勉強時間

日本の高校生は、学校の宿題とそれ以外の勉強を「しない」と回答した者の割合が米中韓に比べて高いが、学校以外の勉強で「3時間以上」と回答した割合が、中韓と並んで1割を超えている。

平日に学校の宿題をする時間をみると、「しない」と回答した者の割合は、日本 11.2%、韓国 8.4%、米国 5.1%、中国 2.2%の順となり、日本が米中韓に比べて高い。一方、「2時間以上」（「2～3時間内」＋「3時間以上」）と回答した者の割合は、中国 55.0%、米国 39.6%、韓国 13.1%、日本 10.8%となっており、中国が4か国中最も高い。日本が最も多いのは「1時間以内」で、51.1%となっている（図 1-2）。

次いで、「平日に学校の授業と宿題以外に、どのくらい勉強しますか（塾なども含む）」についてみると、「しない」と回答した者の割合は、日本が 24.2%と、4か国中最も高い。一方、「2時間以上」の割合は、韓国 33.2%、中国 30.6%、日本 24.9%、米国 12.3%の順となっており、米国が4か国中最も低い。「3時間以上」のみで見ると、日中韓3か国とも1割強である（図 1-3）。

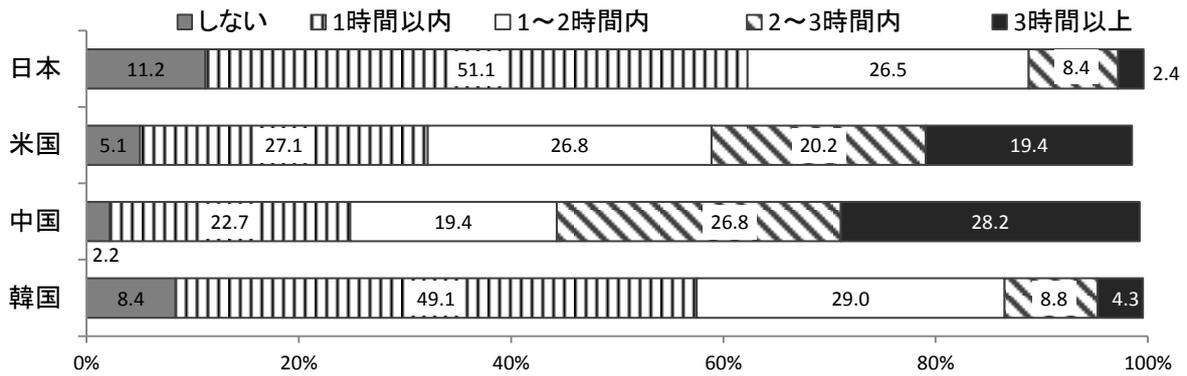


図 1-2 平日に学校の宿題をする時間はどのくらいですか

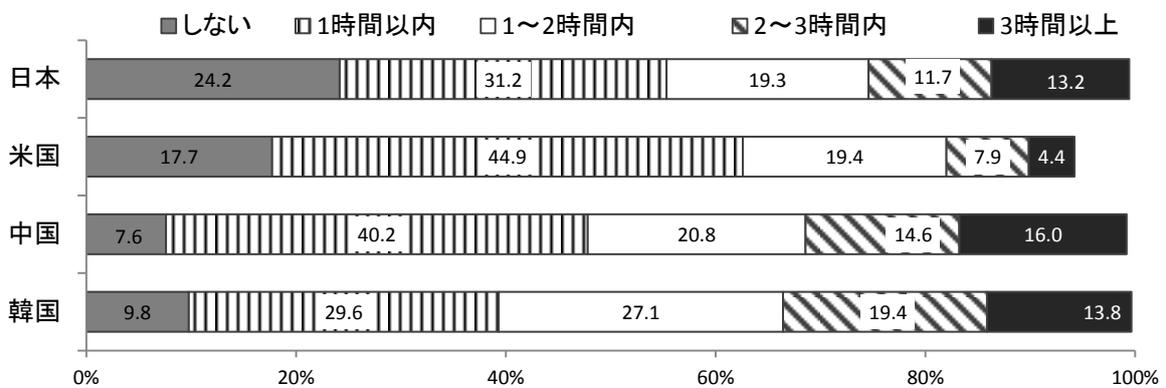


図 1-3 平日に学校の授業と宿題以外に、どのくらい勉強しますか(塾なども含む)

### 3) 勉強の仕方

日本の高校生が最も多いのは、「試験の前にまとめて勉強する」である。「自分で整理しながら勉強する」「教えられたとおりに勉強する」「毎日こつこつと勉強する」「参考書をたくさん読む」「勉強したものを実際に応用してみる」「教わったことをほかの方法でもやってみる」の割合が4か国中最も低い。

勉強の仕方について、「毎日こつこつと勉強する」「試験の前にまとめて勉強する」など12項目を挙げ、複数回答してもらった(図1-4)。

日本が最も多いのは、「試験の前にまとめて勉強する」で、12項目の中で群を抜いている。一方、「自分で整理しながら勉強する」「できるだけ自分で考えようとする」「教えられたとおりに勉強する」「参考書をたくさん読む」「勉強したものを実際に応用してみる」「教わったことをほかの方法でもやってみる」の割合が米中韓に比べて低い。

米国は、「できるだけ暗記しようとする」「教えられたとおりに勉強する」「勉強したものを実際に応用してみる」「教わったことをほかの方法でもやってみる」がともに群を抜いて高い。また、「自分で整理しながら勉強する」「問題集でたくさん練習する」「方法や過程より結果がわかればよいと思う」の割合も4か国中最も高い。

中国が上位となったのは、「できるだけ自分で考えようとする」「問題意識を持ち、聞いたり調べたりする」「参考書をたくさん読む」であり、いずれも4か国中最も高い割合となっている。一方、「できるだけ暗記しようとする」「試験の前にまとめて勉強する」の割合が4か国中、最も低い。

韓国が上位となったのは、「試験の前にまとめて勉強する」「教えられたとおりに勉強する」「できるだけ暗記しようとする」「自分で整理しながら勉強する」であり、いずれも5割前後となっている。4か国の中で最も高い割合を示したのが「毎日こつこつと勉強する」であり、最も低いのが「問題集でたくさん練習する」である。

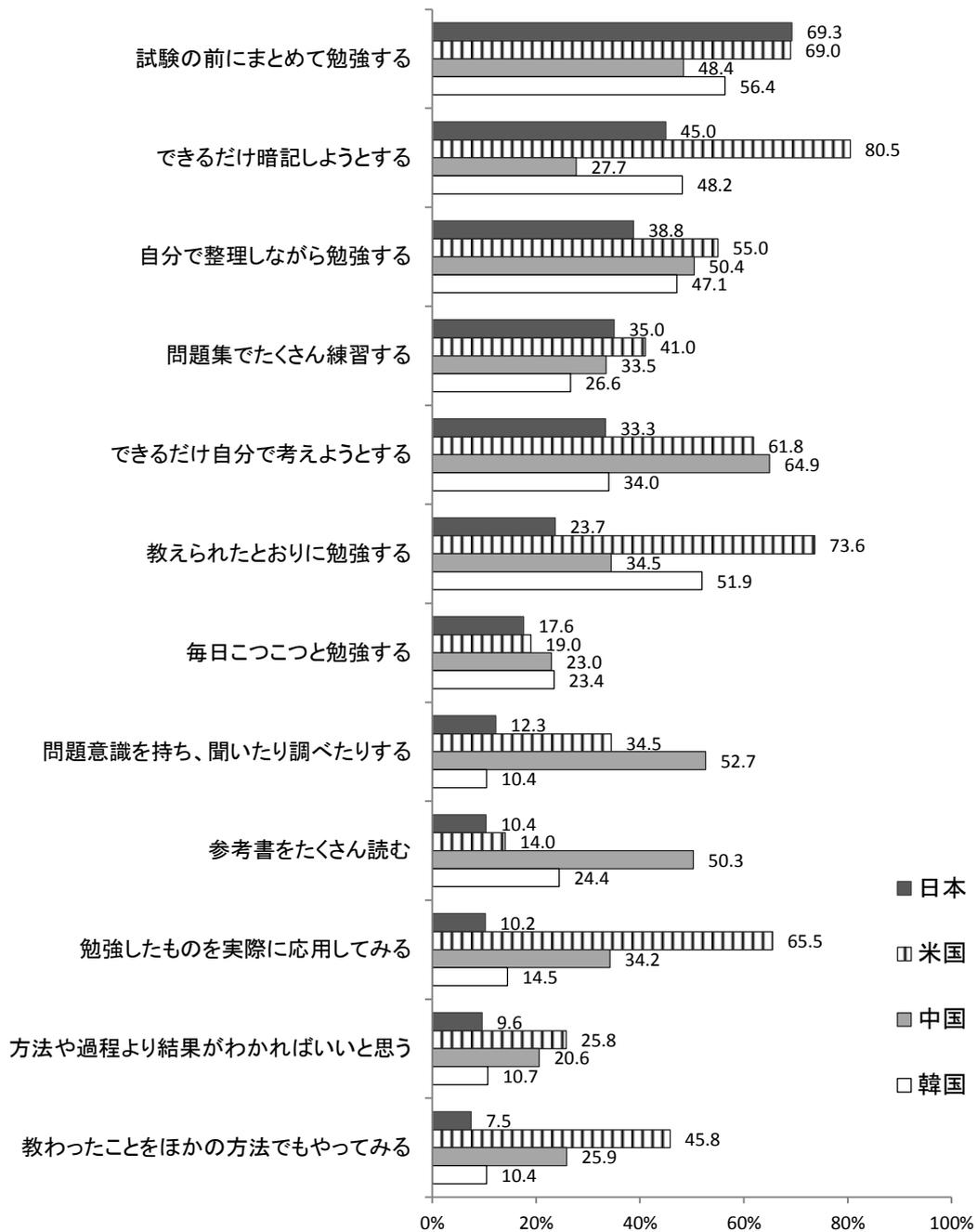


図 1-4 勉強の仕方

上記の12項目を因子分析した結果、「能動型学習」「積み上げ型学習」「暗記型学習」という3つの因子が抽出された(表1-1)。この3つの因子得点の平均値を国別でみると、図1-5のとおり、日本は3因子の得点ともにマイナスとなり、特に能動型の得点が4か国中最も低くなっている。米国は能動型と暗記型の得点が高く、積み上げ型が日中韓に比べて低い。中国は能動型の得点が米国と並んで高いが、暗記型が4か国中最も低い。韓国は能動型がマイナスとなっているが、積み上げ型と暗記型がプラスとなり、特に「積み上げ型」の得点は他の3か国に比べて高い。

表1-1 勉強の仕方の因子分析

	因子1 能動型	因子2 積み上げ型	因子3 暗記型
・できるだけ自分で考えようとする	.673	.046	-.074
・問題意識を持ち、聞いたり調べたりする	.671	.094	-.146
・教わったことをほかの方法でもやってみる	.636	.076	.174
・勉強したものを実際に応用してみる	.632	.069	.281
・参考書をたくさん読む	.322	.078	-.209
・毎日こつこつと勉強する	.095	.732	.035
・試験の前にまとめて勉強する	-.065	-.650	.218
・問題集でたくさん練習する	.134	.457	.182
・自分で整理しながら勉強する	.311	.388	.137
・方法や過程より結果がわかればいいと思う	.108	-.350	.253
・できるだけ暗記しようとする	-.127	-.059	.756
・教えられたとおりに勉強する	.097	.075	.696
固有値	1.976	1.477	1.400
寄与率	16.5%	12.3%	11.7%

因子抽出法: 主成分分析。回転法: Kaiser の正規化を伴うバリマックス法、抽出基準は固有値 1.0 以上

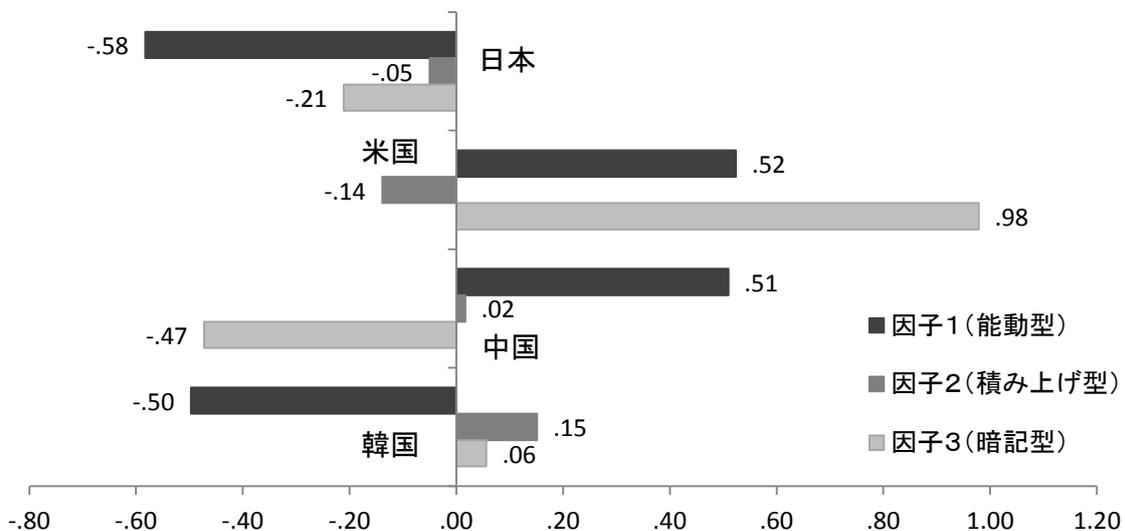


図1-5 勉強の仕方の因子得点の平均値

#### 4) 勉強のプレッシャー

4か国とも6割以上の高校生が「勉強のプレッシャー」を感じている。その主な原因は、日本では「自分の願望」「勉強の内容が理解できない」、米国では「先生の期待」、中国では「友達との競争」、韓国では「就職状況」「親の期待」がそれぞれ4か国中最も高い。

「勉強についてプレッシャーを感じているか」を聞いてみたところ、「とても感じる」の割合は米国が最も高く、3割を超えた。「とても感じる」と「まあ感じる」を合わせると、中国が最も高く、約8割である。

日本は、「とても感じる」が2割強、「まあ感じる」が4割強となっている（図1-6）。

プレッシャーの原因を見てみると、日本が上位となったのは「自分の願望」「勉強の内容が理解できない」であり、4か国の中でも最も高い割合となっている。米国が上位となったのは、「親の期待」「先生の期待」であり、「先生の期待」が日中韓に比べて高い。中国が上位となったのは、「自分の願望」「親の期待」「友達との競争」であるが、とりわけ「友達との競争」が日米韓に比べて高い。韓国は、「親の期待」「就職状況」が3割弱となり、日米中に比べて高い（図1-7）。

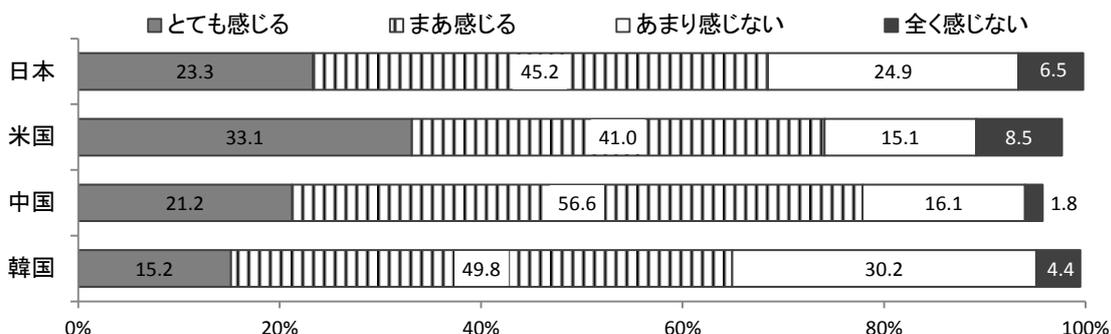


図1-6 勉強についてプレッシャーを感じているか

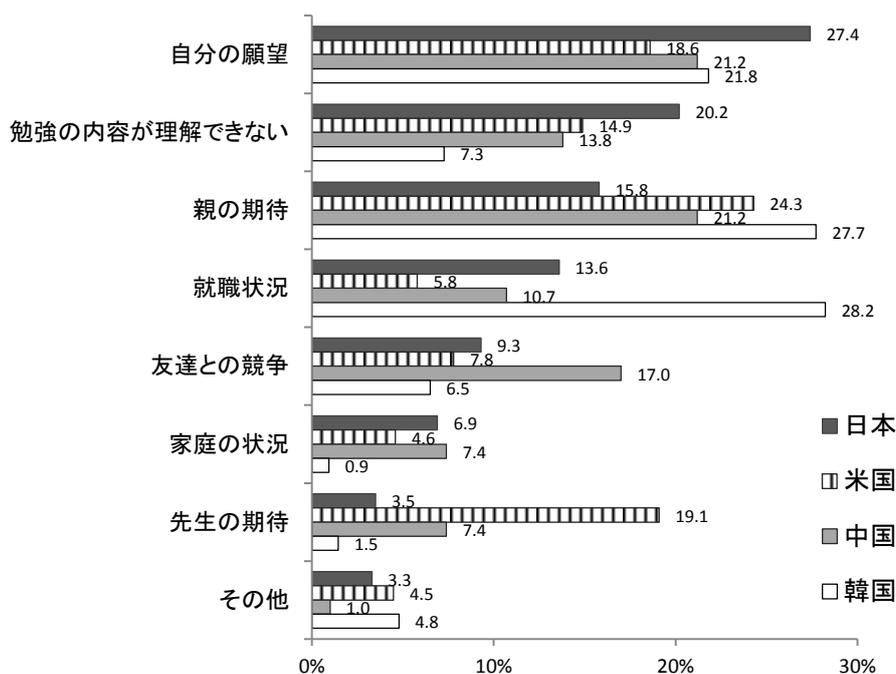


図1-7 プレッシャーの原因(SA)

また、勉強が原因で、「いらいらする」「授業をさぼりたい」「物を壊したい」などの心情の有無を見てみると、中国では、「落ち込む」「いらいらする」を選んだ者の割合が7割前後と高く、「物を壊したい」「人を責めたり、叫んだりしたい」の割合も4か国の中で最も高い。米国は、「いらいらする」が66.2%で中国と並んで高い。そのほかにも、「学校を休みたい」「眠れない」「退学したい」「授業をさぼりたい」の割合が日中韓を抜いて高い。韓国は、「劣等感をもつ」「生活に絶望する」がほかの3か国に比べてやや高い。

日本は、「いらいらする」「落ち込む」の割合が5割弱となっており、「物を壊したい」「退学したい」「人を責めたり、叫んだりしたい」の割合はいずれも1割未満で、4か国中最も低い(図1-8)。

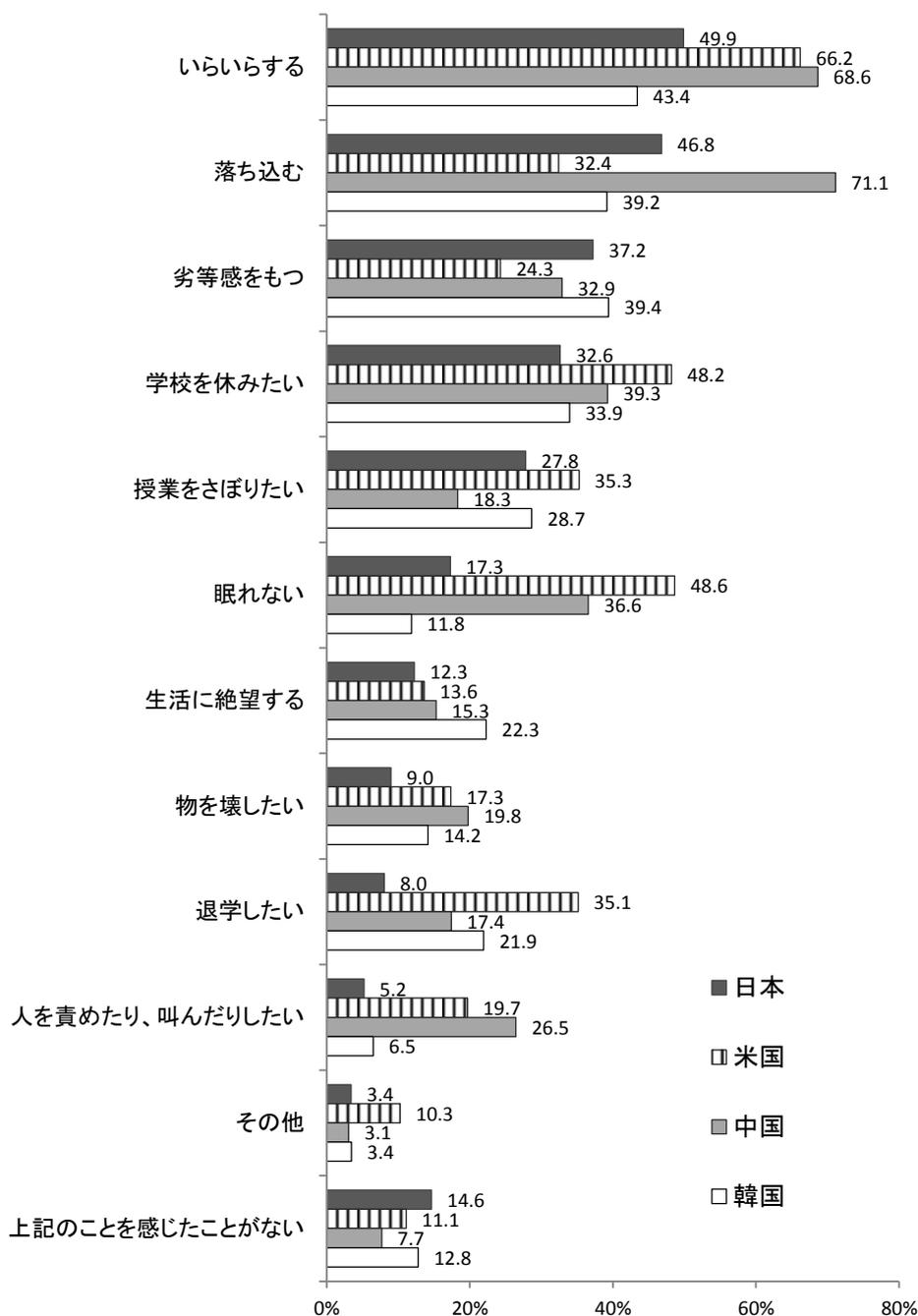


図1-8 勉強が原因で上記のようなことを感じたことがある(複数回答)